



サラヤ株式会社 御中

ウガンダ北部アムル県における子どもや保護者を対象にした 保健と衛生事業 経過報告書

1. 事業概要

- 事業目標

医療サービスがなかなか届かない地域において、HIV/AIDSやマラリアなどの感染症の早期発見や予防を図ることで、子どもの死亡率を低下させることを目指しています。

具体的には、保護者や青少年層も巻き込んで、保健・衛生に関する意識啓発活動をコミュニティで開催し、感染症への知識を深め、感染予防や早期診療を促しています。そのほか、住民が主体となって地域の感染症予防活動に取り組んでいけるよう、研修などの教育活動も実施しています。

主な対象となるのは、アムル県の5歳以下の子ども（HIV/AIDS 孤児を含む）の保護者、マラリアや赤痢、下痢、栄養失調になっている5歳以下の子どもがいる家庭です。ただし、啓発活動や教育活動などには地域の青少年・保護者・教師にも参加を呼び掛けて、地域全体としての意識向上を図っています。

- 事業地

ウガンダ共和国アムル県（スーダンとの国境近く、右図オレンジ色の部分）

- 事業実施期間：2010年7月1日～2011年6月30日

- 事業報告期間：2010年7月1日～2010年12月31日

- 事業背景

アムル県は、2006年にウガンダ北部のグル県が分割され設置された新しい県で、22年間にもおよんだ紛争で最も深刻な被害を受けた地域の一つです。

復興が少しずつ進んではいるものの、その影響はまだ残っており、ウガンダの他の地域より高い幼児死亡率*にも現れています（日本は3人/1,000人）。

*アムル県の幼児死亡率は1,000人中250人（国全体平均は152人/1,000人）、
乳児死亡率は1,000人中172人（88人/1,000人）



高い死亡率の原因として、高い HIV/AIDS や慢性疾患への感染率、マラリアや赤痢、深刻な下痢などの病気への高い感染率、親や保護者の間での医療サービスに関する情報不足などが指摘されています。

また、医療施設も充分でなく、県内の医療施設は、1つの病院と24の医療センターのみで、これらの施設が17万7千人弱の人口を支えています（2007年のデータ）。

これらの原因は社会全体に関わる問題であるため、死亡率低下のためには、子どもへの医療サービスを充実させることは無論のこと、子どもの生存と発達を支援する活動を大人や青少年を巻き込みながらコミュニティ全体で行っていくことも必要だと考えられます。

2. これまでに実施された活動

■ 医療サービス提供

- 支援対象の家庭に対し、HIV 予防と治療、マラリア、下痢、赤痢、栄養不良の予防と治療に関する啓発資料を計 6,000 部配布しました。これらの資料を配布することにより、医療サービスを利用する住民が増えたほか、感染症に対する意識も高くなったという報告がありました。
- さらに、地域住民の医療サービスへのアクセス向上のため、月に一度の検診を実施して HIV/AIDS や性感染症にかかっているかどうかの検査を実施しています。この検診は住民が自発的に診療と検査を受けるものです。各個人が、個人情報を守られるカウンセリングを受け、情報を得た上で自分の感染状態を知ることを選択できるため、仮に陽性だった場合でも差別につながりにくいという利点が指摘されています。
- 12月末までに、計3,352人（男性1,783人、女性1,569人）が検診を受けました。これにより、これまで医療サービスが届いていなかった地域における受診率の改善に大きく貢献することができました。

■ 現地医療機関への紹介

- アムル県の5歳子ども（HIV/AIDS 孤む）の保護者、かかったり栄養欠乏している5歳以上のいる家庭を医療サービスを展18人に対して現機関を紹介しまし



介

以下の子どもを含感染症に失調になった子どもを対象に医療機関を紹介した。

上図・検診の登録をするために



上図：現地医療施設と協力して、5歳以下の子どもに、HIV、下痢、肺炎などの診察を実施している様子

■ 保健・衛生に関する啓発活動

- マラリア、赤痢、肺炎、下痢、栄養不良に関する感染経路、予防方法、治療方法についての啓発活動を12回にわたって行いました。劇やビデオを使っただけの活動には、計2,682人（男性1,675人、女性1,007人）が参加し、これらの感染症について学びました。5歳以下の子どもを持つ母親に加え、青少年などの地域住民も参加し、地域全体での意識啓発を図りました。
- この継続的な活動により、地域での感染症に対する知識と理解が深まったことが報告されているほか、子どもが病気になった場合には早期に診療を受けるようになったり、妊娠中の妻をサポートする活動に夫が積極的に参加するようになったというような変化がみられています。



上図：5歳以下の子どもを持つ母親が、子どもの病気の予防と治療について学んでいる様子

■ 青少年を対象にした HIV/AIDS 教育、研修

- HIV/AIDS 予防と治療、感染者へのサポートの重要性とサポート方法、性教育とライフスキルについての研修を実施し、計104人の青少年が参加しました。参加者は HIV/AIDS についての正しい知識を習得し、さらに虐待にあっている子どもたちや学校を退学した子どもたちに対してどのようなサポートができるのかなど、コミュニティにおける差別を低減する役割を積極的に担うことも学びました。



上図：HIV/AIDS 教育において、グループ学習を行っている青少年

■ 村の保健チーム研修

- アムル県の保健省のチームによる研修が開催され、村の青少年45人（男子23人、女子22人）と、保護者と教師から構成される保健チームメンバー30人（男性15人、女性15人）が参加して、健康管理、HIV/AIDS 予防、性教育や、カウンセリング、地域参加の促進などを学びました。これにより、青少年自身と保護者と教師が、積極的に HIV/AIDS 予防及び、子どもや家庭の健康管理に関わっていけるようになりました。



上図：研修中、保健チームがプレゼンテーションを行っている様子

■ 地域行政への政策提言活動

- ▶ セーブ・ザ・チルドレン ウガンダ事務所は、毎月地域行政との保健・衛生・HIV/AIDSに関する会合に参加し、当該分野での達成事項や課題、成功例などを当局や他の関係者と共有、政策提言を行っています。これにより、事業毎に発生した成果・課題が、行政の保健・衛生分野における政策変化につながっています。

3. 今後の活動予定

活動	活動期間
医療サービス提供	2011年1月～6月
現地医療機関への紹介	2011年1月～6月
保健・衛生に関する啓発活動	2011年1月～6月
地域行政への政策提言活動	2011年1月～6月

子どもの死亡率低下という目標のもと、保護者や青少年、教師までも巻き込んだ地域全体を対象にした保健・衛生事業を行っていくという戦略は、子どもの健康管理を担っている保護者や周囲の人々の行動変容を促しています。これは、子どもの感染症予防や健康管理の質向上、子どもの具合が悪くなった場合に診療をきちんと受けさせるという行動変化などの成果につながっています。従来は医療サービスが浸透していなかった場所においても、医療サービスを使用する人々が増えていることから、人々の意識が少しずつ向上していることがわかります。セーブ・ザ・チルドレンでは、2011年も子どもの生存と発達／成長を支援していきます。

今後とも温かいご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。